

SEMINAR HOUSE NEWS NO.199

 大学セミナーハウス
INTER-UNIVERSITY SEMINAR HOUSE

公益財団法人大学セミナーハウス
192-0372 東京都八王子市下柚木1987-1
電話：042-676-8511 / FAX：042-676-1220
ホームページ：https://iush.jp/

セミナーハウス・ニュースNo.199 / 2023年2月28日発行

春近し！新年度スタート

セミナー事業報告

主催セミナー実施報告
2023年度 主催セミナー一覧

法人ニュース

運営委員会報告

宿泊事業報告

大学ゼミ関連利用実績

ドローンスクール事業をスタート！
留学生論文コンクール 2022 選考結果発表



TOPICS



◆ ドローンスクールを今春開校！



2023年度ドローンスクール開校に向けてドローン講習事業部が発足しました。大学セミナーハウスは国土交通省の定める人口密集地区からはずれ、広い敷地と合わせてドローンを飛ばすのに恵まれた環境であり、本事業はこの立地を活かした新事業となります。昨年12月、ドローン免許が国家資格として施行されたのに合わせ、京都に本部を置く一般社団法人DPCA傘下のスクール分校という形でスタートいたします。ドローンは今後産業分野で多方面に用途が広がると予想されており、学生、社会人問わずドローン国家ライセンスを取得する必要性は高まっています。講習スケジュール等について、詳細が決まり次第ホームページでご案内していきます。



◆ 留学生会館にひな飾り

留学生会館ロビーにおひなさまを飾りました。由来のわかる解説と持ち帰りいただけるひなあられも用意したところ留学生の皆さまに大変好評でした。日本の文化に触れていただけるよい機会になったことと思います。



🌱 公益財団法人大学セミナーハウス活動支援募金へのご協力のお願い

大学セミナーハウスの設立趣旨にご賛同をいただき、持続的かつ安定的な事業活動の推進についてご支援いただきたく一般寄付金として募集させていただきます。コロナ禍の長期化による困難を克服するためには皆様方のご支援が必要でございます。是非ともご協力をお願いいたします。

募金要領のご案内

ご寄付お申込みの詳細については、以下の「QRコード」、あるいは「URL」から当法人募金サイトに移行していただき「募金要領」をご覧ください。

<https://congrant.com/project/cgiush/4505>



公益財団法人大学セミナーハウス活動支援募金寄付者ご芳名 (2月28日まで)

小畑秀文・三井実業株式会社・朝岡寛彰・篠田節子・宮川石材株式会社・伊藤繁・酢屋善元・ぐるぐるつくる大学セミナーハウス代表齊藤祐子・小松義夫・山名善之・学校法人創価大学・飯野訓征・倉郷環境対策協議会会長小峰利男・東京ケータリング株式会社・株式会社横浜電業・株式会社幼体連スポーツクラブ・畑山浩昭・渡邊啓貴・後藤祥子・林原泰子・菊地滋夫・小西宏美・大橋隆哉・大場昌子・山本真一・吉岡知哉・荻上紘一・鈴木康司・外村幸雄・今井隆明(敬称略)



【お問合せ・ご連絡先】

大学セミナーハウス 総務部 募金担当
TEL: 042-676-3081
MAIL soumu-g@seminarhouse.or.jp

千人会通信

(千人会：大学セミナーハウス運営支援団体 1967年設立)

会費をありがとうございました(敬称略) 2022年8月~2022年12月

- 8月 石川達雄
- 9月 村上陽一郎、井出久登、松尾秀雄、村瀬 旻、末松安晴、鈴木俊和、岩崎征人、荒川由美子
- 10月 酢屋善元
- 終身会員 秋山 仁、狩野紀昭、長谷川瑞穂、本田 誠、渡辺禮子
- 継続寄付(4月~12月) 海老根宏、鳥居伸好、松丸和夫、荻上紘一、鈴木康司、外村幸雄、今井隆明

会員からのメッセージ

- 80歳の誕生日を期に会員を退くことにしました。貴ハウスの今後の発展を外側から見守らせてください。 岩崎征人
- 千人会会員証受領しました。ありがとうございました。新しい千人会の御発展をお祈りいたします。 荒川由美子

🌱 「善意の連帯」千人会が新しくなりました

千人会は、大学セミナーハウスを支えるための個人からなる後援組織として発足しました。大学セミナーハウスが時代の変化に対応しつつ、社会に貢献し続けるためには、大学セミナーハウスの在り方をともに考え、応援して下さる方々による「善意の連帯」が必要です。

「人の善意によって経営が支えられるということは最も理想の形態である」

— 千人会第1号会員 故山内恭彦先生(理学博士・東京大学名誉教授) —

この度、千人会の会費を下記の通りに改定するとともに新たなサービスの提供を行うことといたしました。千人会にご関心を寄せていただけましたら、入会についてぜひご検討ください。

◆ クレジットカード決済による毎月の継続寄付といたしました。

- 継続寄付会員 A 2,000円(月々)
- 継続寄付会員 B 1,500円(月々)
- 継続寄付会員 C 1,000円(月々)

【2022年7月以前にご入会の会員の皆様】
別途お知らせの通り、従来通りの「年会費」方式でご継続ください。ご希望の方については、改定会費に変更することができます。

【ご入会をご検討の方、改定会費に変更を希望する会員の方】
以下の「QRコード」あるいは「URL」から「千人会のご案内」サイトに移行していただき、当サイト上の【会員登録・継続寄付】をクリックして入会手続き・変更手続きをお願いいたします。

「千人会のご案内」サイト URL
<https://congrant.com/project/cgiush/4527#>



【お問合せ先】
大学セミナーハウス 総務部 千人会担当
TEL: 042-676-3081 FAX: 042-678-4734
MAIL soumu-g@seminarhouse.or.jp

協力会員・賛助会員一覧

2023年2月14日現在

正協力会員 29、準協力会員 2、賛助会員 12

<正協力会員>

- 1 青山学院大学
- 2 桜美林大学
- 3 大妻女子大学
- 4 お茶の水女子大学
- 5 慶應義塾大学
- 6 工学院大学
- 7 国際基督教大学
- 8 駒澤大学
- 9 芝浦工業大学
- 10 上智大学
- 11 創価大学
- 12 中央大学
- 13 帝京大学
- 14 電気通信大学
- 15 東京外国語大学
- 16 東京学芸大学
- 17 東京工科大学
- 18 東京工業大学
- 19 東京都市大学
- 20 東京都立大学
- 21 東京農工大学
- 22 東洋大学
- 23 東洋英和女学院大学
- 24 日本女子大学
- 25 一橋大学
- 26 法政大学
- 27 明星大学
- 28 立教大学
- 29 早稲田大学



<準協力会員>

- 1 白梅学園短期大学
- 2 東京工業高等専門学校

<賛助会員>

- 1 相羽建設株式会社
- 2 安藤物産株式会社
- 3 (一社) ジャパンケネルクラブ
- 川崎ユース犬友クラブ
- 4 株式会社スリーボンド
- 5 第一屋製パン株式会社
- 6 大成建設株式会社
- 7 多摩信用金庫
- 8 ハウスコム株式会社
- 9 (株) 幼体連スポーツクラブ
- 10 (一社) DOCOMOMO Japan
- 11 (一社) 参加型社会学会
- 12 株式会社ビクセン

千人会(個人会員) 191名



法人ニュース

第3回協力会員協議会運営委員会(大学セミナーハウス運営委員会)実施報告 WEB会議

セミナーハウスをより理解していただくとともに、事前にお答えいただいたアンケートを元にコロナ禍における施設利用の現状をお聞きするなど情報交換を行った。

当日出席運営委員
40 会員中 30 会員 (協力会員 21、準協力会員 2、賛助会員 7)
セミナーハウス側 理事長、館長、専務理事、業務責任者及び事務局スタッフ 計 9

- 次第
総合司会 総務部長 今井隆明
1. 開会挨拶 理事長 荻上紘一
 2. 挨拶 館長 鈴木康司
 3. 施設説明 宿泊事業部長 田代憲史郎
 4. 施設の空撮動画
 5. 事業計画説明 専務理事 外村幸雄
 6. 主催セミナーに関して 専務理事 外村幸雄
 7. ホームページに関して 広報室長 田邊治樹
 7. 運営委員会への協力依頼 総務部長 今井隆明
 8. 全体の質疑応答
 9. 閉会挨拶 専務理事 外村幸雄

2022年12月15日開催



運営委員会出席会員一覧

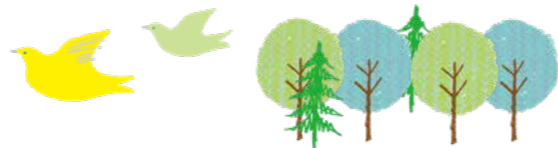
- 正協力会員**
＜国立＞東京工業大学、東京外国語大学、東京学芸大学、お茶の水女子大学、電気通信大学
＜公立＞東京都立大学
＜私立＞青山学院大学、桜美林大学、大妻女子大学、慶應義塾、国際基督教大学、駒澤大学、上智大学、創価大学、中央大学、東洋大学、法政大学、明星大学、立教大学、早稲田大学、東洋英和女学院大学
- 準協力会員**
東京工業高等専門学校、白梅学園短期大学
- 賛助会員**
株式会社スリーボンド、安藤物産株式会社、多摩信用金庫、大成建設株式会社、相羽建設株式会社、第一屋製パン株式会社、ハウスコム株式会社



宿泊事業報告

◆大学ゼミ関連利用実績 (2022年8月～12月)

日付	ご利用団体名
8月1日	中央大学鳥居ゼミ(2年生)
8月5日	東洋大学太矢ゼミ
8月20日	北里大学山本ゼミ
8月14日	桜美林大学岡崎ゼミ
8月22日	東洋大学法学部根岸ゼミ
8月22日	駒澤大学経済学部吉田真広ゼミ
8月23日	創価大学経済学部近貞ゼミ
8月23日	横浜国立大学佐々木ゼミ 2期生
8月29日	日本大学岸本ゼミ
8月29日	明星大学経営学部伊藤智久ゼミ
8月30日	創価大学戸田研究室
9月3日	駒澤大学志村・近藤ゼミ
9月8日	明治大学商学部菊池ゼミ
9月9日	東洋英和女学院大学平田ゼミ
9月10日	名城大学経済学部松尾ゼミ
9月11日	東京大学社会学部専修赤川ゼミ
9月12日	立正大学文学部哲学学科板橋ゼミ
9月12日	東洋大学法学部根岸ゼミ
9月12日	駒澤大学小西ゼミ
9月12日	法政大学木原ゼミ
9月13日	桜美林大学妻ゼミ
9月13日	電気通信大学上野研究室
9月15日	早稲田大学山口ゼミ
9月16日	中央大学合同ゼミ(他大学との合同ゼミ)
9月18日	国際医療福祉大学(山本澄子先生主催)
9月21日	早稲田大学文化構想学部豊田ゼミ
9月22日	早稲田大学岡部研究室
9月22日	早稲田大学川村ゼミ
10月22日	一橋大学山田ゼミ
10月31日	東洋大学佐野ゼミ
11月5日	桜美林大学谷内ゼミ
11月11日	法政大学小林ゼミ
11月21日	東京都立大学田沼ゼミ
11月22日	早稲田大学人間科学部佐藤ゼミ
11月26日	中央大学社会科学ゼミ
12月6日	早稲田大学佐野研究室
12月10日	一橋大学佐藤ゼミ
12月10日	早稲田大学後藤研究室
12月17日	芝浦工業大学蟹澤研究室
12月17日	早稲田大学文化構想学部市川ゼミ
12月27日	立正大学西松ゼミ



2022年度留学生論文コンクール 金賞受賞者

グローバルイシューを考える —多角的な視点から見る「現代のうつ病」— 名前: Li, Cianjing 所属大学: 鳴門教育大学大学院学校教育研究科 国、地域: 台湾

1. はじめに
日本では、対策に重点的に取り組むべきとして指定されている5大疾病の中に精神疾患が入っている。精神疾患の中で割合が最も高いのがうつ病や双極性障害といった気分障害である。また、World Health Organization (2021) の調査においては、うつ病は健康損失の主因とされている。うつ病は深刻な苦痛を引き起こし、社会的機能と経済的生産性を損なわせ、早期死亡につながる可能性があるとされている。しかし、うつ病の影響は十分に認識されておらず、予防と治療に関する要因の多くは未だ不明であり、地方レベルおよび国際レベルでの対応がまだ不十分であると指摘されている (Herrman et al., 2022)。

また、現在、難民の3分の1がうつ病、不安障害、心的外傷後ストレス障害(PTSD)を発症すると予想されている「ウクライナ侵攻」や、世界で5320万例のうつ病を増加し、「コロナうつ」という言葉を生み出した「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行」といった世界情勢から、今後のうつ病は一層増加する可能性がある (CARE International, 2022 など)。
うつによる身体や精神の不調をそのままにすると、長期的に深刻な悪影響を及ぼし、自殺につながることも示されている (WHO, 2017)。そのため、今後継続的にうつ病による不調に苦しんでいる人々に支援を提供することが重要だと考えられる。そこで本稿は、多角的な視点からうつ病への向き合い方について検討する。

2. 「うつ病」とは
うつ病とは、気分障害の一つである。国際的に使われている米国精神医学会の診断基準 DSM-5 では、うつ病の診断を、少なくとも2週間わたるほとんど1日中ほとんど毎日の「抑うつ気分」あるいは「興味、喜びの著しい減退」のほか、ほとんど毎日の「食欲と体重の減退や増加」、「不眠や過眠」や「反復的な自殺念慮」などの症状がみられるとしている (American Psychiatric Association, 2013)。うつ病の発症の原因は、感情や意欲を司る脳の働きに何らかの不調が生じていると考えられているが、正確な原因は明らかにされていない。そのため、うつ病は、社会的・心理的・生物学的など多種多様な要因が組み合わさった結果と考えた方が妥当だろう。

3. うつ病に対する誤解
3-1. うつ病の治療
近年、うつ病の罹患率が増加したことによって、「うつ病が悪いもの」という意識が徐々に薄くなり、日本でも「こころの風邪」という表現が見受けられるようになった。この「こころの風邪」というフレーズによって多くの人が気軽に医療機関を受診しやすくなったと思われるが、この比喻によって、さまざまな誤解を招いた可能性も指摘されている (泉谷, 2008)。泉谷 (2008) は、こころの風邪という言葉を使うことで、「風邪だから、薬を飲んだら治る」「数日から1週間もあれば治る」といったように、うつ病の捉え方や治療のイメージについて誤解を生んでしまう要素が含まれていることを指摘している。専門家は多くの場合、うつ病に対し、「治療」という言葉は使わずに、症状が緩和され、病気の勢いが治まった状態を指す「寛解」という用語を使う。それは、うつ病は再発しやすく、不調から回復しても1～2年間は治療を継続し、再発を予防しながら調子のいい状態を維持する必要があるからである。また、うつ病は、治療を行っても、身体疾患や不安障害の合併などにより2～3割が難治化・遷延化し、そのような患者には薬物療法の効果が十分にはえられないとされている (吉村, 2015)。そのため、うつ病の治療には症状や程度によって、薬物療法のみならず、認知行動療法や対人関係療法などの心理療法や反復経頭蓋磁気刺激療法などが用いられている。

3-2. うつ病の多様性
うつ病は「過労やストレス」が原因で、「暗くて引きこもりがちの人」「メンタルが弱くてすぐ投げ出す人」がなると考えられることが少なくない。しかし、このようなイメージは、ドイツの精神科医であるテレンバッハが提唱した「メランコリー親和型」という性格の類型とは異なる。「メランコリー親和型」性格の特徴は、責任感が強く、社会の秩序を重んじ、その担い手として献身的に尽くすことに自分の生きがいを見出すタイプだった (與那覇, 2018)。また、悲しい出来事だけでなく、結婚・昇進・進学といった喜ばしい出来事もきっかけとなる場合がある (厚生労働省, 2011)。
しかし、近年は、うつ病概念の拡大や社会状況の変化に伴い、上述したメランコリー親和型の性格に該当しないディスチミア親和型と呼ばれる人が増加している (樽味, 2021)。樽味 (2021) によると、ディスチミア親和型はメランコリー親和型とは異なり、うつ病だと宣告されても平気で受け入れたり、他人のせいにしたりするなど、成熟した役割意識から生まれる自責的感覚を持ちにくい。そのため、「個人のわがまま」「ゆとり教育のせい」と考えられることもある。このような特徴は、1900年代半ばに従来の定型うつには当てはまらない、「非定型うつ病」としてその存在が確認され、近年では「新型うつ病」とも呼ばれている。

4. 多角的な視点からの向き合い方
うつ病は一層増加すると示されていることから、自分自身や周りの誰かがうつ病にかかることも十分に得るだろう。そこで、「自分」「他者」「社会」という3つの視点から、その取り組み方について検討したい。
4-1. 第一視点: 自分で気づく、取り組む
嫌なことやつらいことがあると誰もが憂鬱な気分になるが、楽しいことがあれば気が晴れる、それが健康的な状態だと考えられる。そして、それが健康的な気分の落ち込みなのか、病的なものかを判断するため、うつ病の特徴と自身の心身状態を把握する必要がある。「食欲がない」、「疲れやすい」「動悸」といった症状もうつ病の前兆として考えられる。そのような症状が現れたらとにかく休むとよいだろう。精神状態が悪化すると、イライラして焦りが出たり、自分がダメな人間に感じたり、さらに死んでしまいたいほどの気持ちが現れたりすることも珍しくはないだろう。しかし、無理に一人で抱え込み、回復しようとする必要はなく、今まで頑張ってきた自分を褒めて、今の自分を受け入れることが大切である。「5分のヨガができた」「台所の掃除ができた」など、少しずつでも出来たことを書き出すことによって、自分自身もその変化を感じ、改善につなげることができる。自分自身の気持ちを理解し、次の一歩に踏み出せたとき、それは成長だと言えるだろう。

4-2. 第二視点: 家族・友人・同僚が気づく、取り組む
うつ病では、様々な症状が現れるが、本人にはなかなか気づきにくいこともある。そのため、周りの人たちの気づきや援助も重要である。家族、友人や同僚に「表情が暗い」、「落ち着かない」、「飲酒量が増える」などの変化があったら、本人はうつ状態が悪しんでいるのかもしれない。その時は、「頑張って」「早く元気になって」と、励ますような言葉をかけるとプレッシャーになってしまうため、「悩んでいることがあれば相談のよ」と本人の気持ちに寄り添い、共感を示すことが重要である。また、うつ病の人の周りにはいる人も自分なりにサポートしているのにもうまいかない場合、その人と一緒にいるのがつらいと感じてしまう時もあるだろう。援助者が本人を理解することも大事だが、援助者自身の気持ちも大切である。そのため、つらいと感じた時は決して無理をせずに、適切な距離を取り、お互いに休息できる時間を取ることが大切である。

4-3. 第三視点: 社会で取り組む
世界で、成人の5%がうつ病に罹患しているとされているが、うつ病の受診率は以前低いままである。うつ病に苦しむ人々のうち、診断も治療も受けていないのは、高所得国で約半数、低・中所得国では9割にも上る (Herrman et al., 2022)。WHO (2017) は、多くの国でうつ病に代表される精神疾患に対する社会の偏見があり、医療従事者も不足していることを指摘している。これらのことから、うつ病は個人レベルで考えるだけでなく、社会レベルで考える必要があることが伺える。
貧困や格差などの課題もあり、医療機関にかかることを推進するのは難しいが、改善策がないわけではない。例えば、大規模の人を対象に、自らの成長や発達することで将来にわたる問題の回避や解決を促すことを目指す「予防教育」という方法もある。うつ病への予防教育には「感情への認知」、「思考の変容」や「解決力の向上」といった要素が含まれ、日本でもその効果は示されている (重松他, 2019 など)。また、WHO (2017) も若年層を対象に地域、学校ごとに予防プログラム実施する重要性を強調しており、個人レベルを超えた理解がさらに求められる。

4. おわりに
うつ病は全世界人口の4%を超えており、事態は深刻である。本稿は、うつ病に苦しんでいる人々への理解や支援を推進するため、うつ病との向き合い方について言及したが、本稿で扱っているのはうつ病のごく一部にすぎない。うつ病が貧困や育児に与える影響や、国家間・地域間の医療格差など、これらに向き合うべき課題が多く存在し、継続的な取り組みが求められる。本稿が、うつ病への理解と支援を世界に広めるきっかけとなれば幸いである。

参考文献
American Psychiatric Association. (2013). Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders: DSM-5. Amer Psychiatric Pub Inc.
(アメリカ精神医学会 高橋 三郎・大野 裕 (監訳) 染矢 俊幸・神重 隆一・尾崎 紀夫・三村 将・村井 俊哉 (訳) (2014). DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 医学書院)
CARE International (2022). 3 months of war in Ukraine: voices from the humanitarian frontlines. care. Retrieved December 14, 2022, from https://www.care-international.org/news/3-months-war-ukraine-voices-humanitarian-frontlinesCOVID-19 Mental Disorders Collaborators. (2021). Global prevalence and burden of depressive and anxiety disorders in 204 countries and territories in 2020 due to the COVID-19 pandemic. The Lancet, 398(10312), 1700-1712. doi: 10.1016/S0140-6736(21)02143-7
泉谷 開示 (2008). 「うつ」を「心の風邪」と喩えることの落とし穴ー「うつ」にまつわる誤解その (4) Diamond Online. Retrieved December 9, 2022 from https://diamond.jp/articles/-/3420
厚生労働省 (2011). うつ病 知ることからはじめようみんなのメンタルヘルス Retrieved December 10, 2022 from https://www.mhlw.go.jp/kokoro/known/disease_depressive.html
重松 潤・波光 清康・神原 広平・吉良 悠吾・松本 美敦・廣瀬 春香・増永 希美・溝石 花歩・大島 陸・野口 由華・津谷 沙耶・西原 祐也・尾形 明子 (2019). 学級規模のユニバーサルな抑うつ予防プログラムの検討ー認知的アプローチは定時制高校にフィットするの?ー 中国四国心理学会論文集, 52, 55.
樽味 伸 (2005). 現代社会が生む「ディスチミア親和型」臨床精神医学, 34(05), 687-694.
World Health Organization. (2017). Depression and other common mental disorders: global health estimates. World Health Organization. Retrieved December 10, 2022, from https://apps.who.int/iris/handle/10665/254610
World Health Organization. (2021). Depression. World Health Organization. Retrieved December 10, 2022, from https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/depression
吉村 玲児 (2015). 難治性うつ病の要因と治療 週刊日本医事新報, No.4755, 53. 與那覇 潤 (2018). 知性は死なないー平成の鬱をこえてー 文藝春秋

セミナー事業報告

2022年度主催セミナー実施報告

■ 第12回 回新任教員研修セミナー（オンラインセミナー）

テーマ：ポストコロナのアクティブ・ラーニング

開催日：2022年8月29日(日)～8月31日(火)

会場：Zoom ミーティングルーム

共催：公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩

参加者：8校13名

参加大学：沖縄県立看護大学(3名)、国士舘大学(2名)、前橋工科大学(2名)、大阪物療大学(2名)、中央大学(1名)、ものづくり大学(1名)、防衛大学校(1名)、南九州大学(1名)

運営委員兼講師：

- 菊地 滋夫 (企画委員長 / 明星大学学長補佐・人文学部教授)
- 諏訪 茂樹 (東京女子医科大学統合教育学修センター准教授)
- 福山 佑樹 (関西学院大学ライティングセンター准教授)
- 藤井 恒人 (東京農工大学グローバル教育院教授)

講師： 田原 真人 (IAF JAPAN 理事、参加型社会学会会長、デジタルファシリテーター)
榊原 暢久 (芝浦工業大学教育イノベーション推進センター教授)
伏木田 稚子 (東京都立大学大学教育センター准教授)
村山 光子 (明星学苑発達支援研究センター)

詳細▶



■ 憲法を学問するVI（ハイブリッドセミナー）

テーマ：転換期の国際憲法？

開催日：2022年10月1日(土)・2日(日)

会場：大学セミナーハウス、Zoom ミーティングルーム

参加者：(会場) 学生7校15名、社会人13名 計28名
(オンライン) 学生2校2名、社会人8名 計10名
合計38名

参加状況：東京大学(9)、早稲田大学(2)、中央大学(2)、千葉大学・一橋大学・日本大学・上智大学(各1)、社会人(21)

企画委員兼講師：

- 石川健治 (委員長 / 東京大学法学部教授)
- 蟻川恒正 (日本大学大学院法務研究科教授)
- 穴戸常寿 (東京大学法学部教授)
- 木村草太 (東京都立大学法学部教授)

特別講義：樋口陽一 (東京大学・東北大学名誉教授)

詳細▶



■ 第10回 EU セミナー

テーマ：ウクライナ危機と EU 統合

開催日：2022年10月28日(金)～30日(日)

会場：大学セミナーハウス

後援：駐日欧州連合代表部

参加者：11校45名 社会人1名 合計46名

参加大学：帝京大学(12名)、日本大学(12名)、立教大学(10名)、青山学院大学(4名)、一橋大学、早稲田大学、中央大学、法政大学、東洋英和女学院大学、学習院大学、常磐大学(各1名) 社会人(1名)

企画委員兼講師：

- 太田 瑞希子 (日本大学経済学部准教授)
- 押村 高 (青山学院大学国際政治経済学部教授)
- 田中 素香 (中央大学経済研究所客員研究員・東北大学名誉教授)
- 福田 耕治 (早稲田大学政治経済学術院教授)
- 武田 健 (青山学院大学国際政治経済学部准教授)
- 中西 優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授)
- 蓮見 雄 (立教大学経済学部教授)

小久保 康之 (東洋英和女学院大学国際社会学部教授) 当日欠席
渡邊 啓貴 (企画委員長 / 帝京大学法学部教授・東京外国語大学名誉教授)

特別講演：「日・EU 関係～激動する時代の戦略的パートナーシップ～」
駐日欧州連合代表部公使・副代表 Mr. Haitze Siemers (ハイツェ・ジーマルス)

詳細▶



■ 第43回 大学職員セミナー（オンラインセミナー）

テーマ：新たなリスクに挑む大学マネジメント
— 具体的事例から考える —

開催日：2022年11月5日(土)

会場：Zoom ミーティングルーム

協賛：公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩

後援：大学コンソーシアム八王子

参加者：7校8名 社会人1名 合計9名

参加大学：明治大学(2名)、駒澤大学、関西外国語大学、関西国際大学、滋慶学園、東京家政学院大学、東京女子大学(各1名) 社会人(1名)

企画委員： 神山 正之 (企画委員長 / 立教大学入学センター)

青木 加奈子 (共愛学園前橋国際大学短期大学部事務局)

加藤 毅 (筑波大学大学研究センター准教授)

黒田 絵里香 (慶應義塾塾監局総務部課長・協生環境推進室事務長)

田中 一平 (法政大学学務部次長)

渡邊 正樹 (中央大学学事部企画課課長)

基調講演1：「大学が直面している新たなリスクとわかっていても減らない事故」

講演者：藤井昌雄 (国大協サービス取締役副社長兼事業部長)

基調講演2：「リスク管理論とリスク社会論に学ぶマネジメント」

講演者：加藤毅 (筑波大学大学研究センター准教授)

詳細▶



■ 古田武彦記念古代史セミナー 2022（ハイブリッドセミナー）

テーマ：「聖徳太子」と「日出づる処の天子」の時代

開催日：2022年11月12日(土)・13日(日)

会場：大学セミナーハウス、Zoom ミーティングルーム

共催：多元的古代研究会 東海古代研究会 東京古田会 古田史学の会

参加者：62名 (社会人：会場38名 オンライン24名)

実行委員：荻上 紘一 (委員長)

大越邦生、大星 伸明、橋高 修、西坂 久和、畑田 寿一、

富川 ケイ子、和田 昌美

特別講演：「日本古代史と聖徳太子」

大山 誠一 (中部大学名誉教授)

詳細▶



■ 世界の中の中国と日本 — 現代中国理解 IV

テーマ：新たな世界秩序？の下で中国共産党新政権の目指すもの

開催日：2022年12月3日(土)・4日(日)

会場：大学セミナーハウス

参加者：10校22名 社会人4名 合計26名

参加大学：学習院女子大学(10名)、青山学院大学(3名)、大東文化大学(2名)、上智大学、東京外国語大学、日本女子大学、学習院大学、京都外国語大学、城西大学、東京大学(各1名) 社会人(4名)

企画委員兼講師：

川島 真 (委員長 / 東京大学大学院総合文化研究科教授)

小嶋 華津子 (慶應義塾大学法学部教授)

金野 純 (学習院女子大学国際文化交流学部教授)

森 路未央 (大東文化大学外国語学部准教授)

詳細▶



やまゆり書道教室

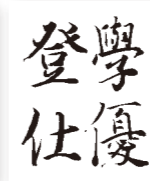
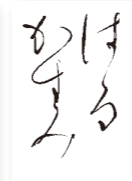
< 2022年度 2023年3月まで >

○小学生コース

開催日：月2回水曜日開催 (毛筆1回、硬筆1回)

場所：セミナーハウス本館 4階多目的ホール

現在の生徒数：5名 定員：10名 募集中



<2023年4月よりコース新設・変更>

○大人コース【新規開設】 <大人の書道教室>

対象：18歳以上、年齢の上限無し

内容：月2回、毛筆(かな書道を中心に基礎から)

定員：10名

月謝：4,000円/月

○小中学生コース【新規開設】 <小中学生書道教室>

※2021年9月14日開講の小中学生書道教室より移行

対象：小学生・中学生

内容：月2回 毛筆、硬筆の学習、競書誌による級・段の認定あり

定員：10名

月謝：3,000円/月

2023年度主催セミナー予定

セミナー名	開催日	開催方式	対象	定員
第13回 新任教員研修セミナー	8月28日(月)～29日(火)	オンデマンド講義視聴+オンライン開催 +1泊2日会場参加	大学の新任教員	40人
第11回 EU セミナー	10月13日(金)～15日(日)	会場参加型セミナー 2泊3日	大学生、高校生、社会人	60人
第44回 大学職員セミナー	10月27日(金)～28日(土)	会場参加型セミナー 1泊2日	大学職員	40人
古田武彦記念 古代史セミナー 2023	11月11日(土)～12日(日)	ハイブリッド型セミナー 1泊2日	大学生および社会人	60人
憲法を学問するVII	11月25日(土)～26日(日)	会場参加型セミナー 1泊2日	大学生および社会人	50人
現代中国理解V	12月2日(土)～3日(日)	会場参加型セミナー 1泊2日	大学生および社会人	40人

各セミナーのテーマ：未定

ハイブリッド型セミナー：会場参加とオンライン参加を同時双方向で行う

留学生支援

■ 留学生論文コンクール 2022 選考結果

公募期間：2022年7月1日～12月16日

結果発表：2023年1月23日

審査委員：鈴木 康司 (大学セミナーハウス館長)、
花澤 聖子 (神田外語大学アジア言語学科教授)
孫 国鳳 (東京理科大学教養教育研究院講師)

全国23大学の留学生(出身国は9カ国)から29作品のご応募がありました。

大学別：お茶の水女子大学1名、東洋大学1名、立教大学1名、名古屋経済大学5名、日本経済大学2名、京都大学2名、立命館大学1名、北九州市立大学1名、九州情報大学1名、愛知大学1名、九州大学1名、同支社大学1名、東海大学1名、慶應義塾大学1名、三重大学1名、千葉大学1名、神戸大学1名、鳴門教育大学1名、神奈川工科大学1名、明治大学1名、日本語文化言語学校1名、大阪公立大学1名、富山大学1名

国・地域別：9

中国15名、台湾4名、ベトナム2名、韓国2名、ネパール2名、シンガポール1名、大韓民国1名、コロンビア1名、フィリピン1名

<留学生論文コンクール 2022 入賞作品一覧>

- 金 李 千菁 (鳴門教育大学 台湾) 多角的な視点から見る「現代のうつ病」
- 銀 レークインアイン (名古屋経済大学 ベトナム) 廃棄物処理方法について
- 銀 LEONIDA RHANZEL LARIOQUE (日本経済大学 フィリピン) 国境を越えた「子ども食堂」の可能性：フィリピン・マニラ市のスラム・トンド地区を例に
- 銅 林 詩容 (愛知大学 台湾) 持続可能な開発目標 (SDGs) に潜む問題
- 銅 何其歡 (神奈川工科大学 中国) ポストコロナ時代にオリンピックの価値と展望

※李 千菁 (鳴門教育大学 台湾) さんの金賞受賞作品を5頁に掲載

■ 留学生会館

留学生に宿舎を提供。この「出会いの丘」で国際交流を深めています。

全25室中、2023年1月末現在20室入居中です。入居を希望する方はお問い合わせください。



全世界を震撼させたコロナ禍も丸3年が経ち、各国とも独自の発想に立って対策を実行しており、なかにはうまくいっているところもあるようですが、自然現象ではなく人間が惹き起こしたとんでもない災いが昨年、ロシアによるきわめて勝手な理屈に基づいたウクライナ侵攻という形で始まり、これまた民主主義を標榜する国と独裁政権による専制国家が対立して、いつ終わるともわからない泥沼のような戦争が続いております。第二次世界大戦が終わって勝者である連合国を中心とした国連ができたのはよいとして、勝者たる連合国による拒否権を認めただけに、東西対立に関する重要案件は安全保障理事会でことごとくといってよいほど成立せず、今や国連に期待することもできない有様となりました。



一方、アメリカの主導する民主主義国家に忠実たらんとする日本政府はただひたすらその言いなりになって独裁国家たる中国、北朝鮮、ロシアなどに対立する政策をとり続けています。確かに我々は第二次世界大戦の敗者として軍国主義を捨て、戦後民主主義によって国を復興してきました。だからと言って日本政府はまるでアメリカのお先棒を担ぐように、独裁国家の矢面に立ち軍備を増強して国民の安全を守ると大見得を切っていますが、果たして本当にそれで国民の安全が守れると本気で思っているのでしょうか。私は生まれた家をアメリカ軍の空襲で焼かれ、三月十日の大空襲も経験し、集団疎開で栄養失調になり、小学校6年生の時に敗戦を迎えましたから戦争がどれほど国民を犠牲にするかよく理解していますし、軍拡競争が互いの抑止力になるなどというたわごとを信ずる気もありません。やられたらやり返す、それが国家というものです。真珠湾に対するアメリカの反応を見れば明らかですし、最近では小国ウクライナが大国ロシアに対して示した激しい抵抗でも証明されています。

大切なのは何よりも平和を守ることであり。それも相手を威嚇して守るのではなく、外交努力によって相手を敵視していないことを理解させるのが何よりも肝要だと思うのですがいかがでしょうか。

日本政府の偉い方々にはまずその努力こそ傾けていただきたいといつも思っています。現代では核戦争が起きたら勝者も敗者もなくなることを誰もが知っていますし、たとえ核を使わなくても戦争当事国の国民は例外なく命の危険にさらされます。

さて深刻な話題はこのくらいにしておきましょう。コロナの第八波もだいぶ収まってきました。壊滅的だったセミナーハウス来館者の数も少しずつ戻りつつあります。全職員が由緒あるこのセミナーハウスを守り育てようと頑張っています。その頑張り一朝にしてついでのような国家間の争いがアジアでは決して起きないことを祈っています。大学セミナーハウスの前途に光が差しますように。(2023年春)

お知らせ

留学生会館の居室全室のエアコンを交換

現在10カ国21名の留学生の方々にご利用いただいている留学生会館ですが、2005年の開館以来使用していたエアコンが古くなり、昨夏、全25室とキッチン合わせて計26台を新しくしました。また、一昨年にはやはり全室のトイレをシャワートイレに替えております。留学生会館はコロナの流行にともない利用者が一時減っていましたが、留学生の受け入れが緩和されたことにより一気に活気を取り戻しています。皆さまに快

適な留学生生活を送っていただきたいと願っております。



留学生による消防訓練と合わせて行われた懇親会の様子

広報室より

株式会社ビクセン様がこの度当法人の賛助会員として参加いただけることになりました。天体望遠鏡などを製作されている会社で、私も中学生のときにビクセン製の天体望遠鏡をのぞき星空を観察していた思い出があります。昨年12月に「星のソムリエ」を養成する講習会を当施設で開催され大変な盛況ぶり

でした。観望会では、木星、土星、火星、オリオン座星雲、すばるなどを最新の望遠鏡で見ることができて、久しぶりに私も堪能させていただきました。今後は年1、2回、当施設にて講習会を開催されることになっています。自然をあつかう団体のご利用が多いのが当施設の特徴でもあります。(田邊)



セミナーハウス・ニュース No.199

2023年2月28日発行

発行部数=1,000部

発行=公益財団法人 大学セミナーハウス

発行人=鈴木康司

編集制作=大学セミナーハウス 広報室